

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム 翔里		
所在地	長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 25	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が居心地の良いと思って頂ける様に常に声かけし見守りをしている。日勤帯はレクレーションをして退屈しない様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、平戸市津吉町の田園に囲まれた、のどかな場所に設置されており、ホームからは四季に応じた風景を望む事ができる。家族への事業所便りでは、新年の参拝の様子、代表者からの挨拶、津吉小校校慰問会の様子、新人職員の紹介や勤務に向けての抱負が掲載されており、ホーム運営状況を知らせている。敬老会・クリスマス会・懇親会等の各種行事に家族を招いて交流を図ったり、近隣小学校・保育園・老人会の方と各種行事等を通じて親交を深められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 壱番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念などを唱和して実践している。	家庭的で暖かな雰囲気作り・志を持った介護の実施・地域社会との交流等をホーム運営方針とし、職員は日々のケアに協力して従事している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問やイベントを通してだが交流をしている。地域の方々とは民生委員さんが面会にきて頂いている。	小学校児童や老人会夫人部の方との慰問交流や中学生ボランティア等を実施し、地域交流が図られている。外部の方より、歌・演劇会・手遊び等のレクリエーションがある際は入居者の方の笑顔が度々見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の研修会・慰問、運営推進会議の中で、認知症について説明を行ったり、施設についての説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で推進委員の皆様から貴重な意見を頂いているが検討事項などについての進展状況などについての報告がなされていない。また、職員に伝達されていない。今後は議事録の回覧をしていく必要がある。	平成29年2月及び平成28年11月に開催された会議では、市職員・顧問・民生委員の方の参加があり、入居者の生活状態・行事計画の報告やホーム運営についての改善案が挙げられている。また、意見が出た場合は記録に残し、随時対応していくよう努めているが運営状況の変化もあり、対応できていない部分が窺える。	会議において出された意見については、改善策や対応をして頂く事を期待します。また、運営状況を知って貰えるよう、会議議事録を家族へ送付する事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所福祉課介護保険班の担当の方が運営推進会議に参加して頂いている。また、実地指導後の状況報告などを通し、以前よりは、事業所側から状況報告を行ったり、相談させていただく機会が増えた。	日々の事務的な業務相談や運営推進会議等でホーム運営状況を報告している。実地指導で指摘された内容について運営推進会議で報告し、改善していくよう努めている。風船バレー大会等、地域資源を活用して行事の参加もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が、身体拘束、言葉の拘束など内容と弊害を認識できるような取り組みが必要と考える。気づかないうちに言葉をさえぎったり、気持ちを押しさえつけていないか、日々の業務の中で、点検したりしている。	身体拘束ゼロへの取り組み手引きを参考に、入居者へ抑圧した生活支援にならないよう努めている。また離設があった場合に対応する事ができるよう近隣(スーパー・薬局)の方とも顔見知りの関係を構築されてる。今後、身体拘束しないケアについての勉強会・研修会への参加を重ね、その知識・技術を職員全員が更に充足していく事を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を職員全員で理解するため施設内研修を行っていく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会としては取り上げていないが成年後見制度の言葉が出てきた際に説明を聞いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に数項目契約書類等の内容の説明をし同意を得て捺印を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や質問、苦情が出た際は直接利用者様のご家族より受ける事が多い。ご家族の方が、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、意見として聞いた内容については、ミーティングで話し合い、反映させている。	家族への事業所便りでは、新年の参拝の様子、代表者からの挨拶、津吉小学校慰問会の様子、新人職員の紹介や勤務に向けての抱負等が掲載されている。敬老会・クリスマス会・懇親会等の各種行事に家族を招き、交流を深められている。家族が来訪しやすい雰囲気づくりとして、挨拶・お茶出しはかかさないうよう努められている。	事故報告書に家族への連絡の経過が記載されていない部分があり、報告実施の有無が判断しづらい。連絡及び記録を確実にすることが望まれる。また、家族との意見交換のための今後の工夫(例:意見箱設置又は家族アンケート等)に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営職員会で各部署の意見を出してもらいそれに元づいて出来ることは反映している。	職員の意見を聴く場面は日々の業務中で多々あるが、毎月、運営職員会議を開催し、各種意見を聴く機会を設けている。職員で組織された行事委員会や環境委員会等を設置されており、運営にその意見を取り入れる事もある。	職員不足により、各種対応が遅延する恐れがある状態と思われた。運営推進会議でも同様の意見が挙がっている点も鑑みると、人材確保・職場定着率向上(新人職員研修・ストレスケア対策等)に向けての取り組みが必要と思われる。今後の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主に設備等の要望を改善できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会をなかなかとれていない。個人的に回覧等で興味のある研修は参加している職員はいるが、計画的な取り組みになっていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	風船バレー大会が6月にあり三施設で集まるときに交流を深めている。その他は、平戸市内のグループホームの事業所同士、交流を深めるような機会を持ちたいと検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何かあったら小さいことでも職員同士で情報を共有し、利用者様の不安を取り除くように傾聴を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がこれまで苦勞してこられたことなど傾聴し、ご家族の意向などを聞き出せるようゆっくり話を聴く機会を持つようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	無理して聞き出そうとはせず「その時」を待ちながら見守っている。相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら、ケアを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9名の利用者様、それぞれの立場に立って一人一人に合ったケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活していく中で不安な事、不満を家族に伝えて面会時に本人様とお話しして頂き少しでも解消して頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば同じ地域の利用者様同士を同じフロアに入居して頂いている。	近隣薬局やスーパーの方とは散歩等で顔を合わせており、気軽に相談・離設の際に協力して貰い安い関係性にある。馴染みの知人や友人の来訪は随時受け入れている。手紙・年賀状の作成支援は随時実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に声かけをし一人になりたい時はそっと見守る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも何かあれば対応出来るように情報収集はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者様に合ったケアはしているつもりだが困難な時は家族の協力を得ている。	入居者が思いや意志を伝えやすい関係性づくりの為、会話の仕方(視線を合わせる・ゆっくりとわかりやすい言葉使い・声かけの位置等)について配慮されている。入居者から要望等があった際は出来る限り迅速に対応する事を心掛けており、不満やストレスが生じないよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーションではやったことのないトランプゲームをして本人様の意外な一面を見たりする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態はまずは表情、顔面色、バイタル測定で把握できる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで利用者様の状況や新たに出た情報を共有してそれを元にケアプランを作成する。	担当者からの意見を元に、本人の生活状態に応じたケアプランを作成するよう努めている。	介護計画の目標達成期間の設定が、短期目標・長期目標で同一となっている方が見受けられた。現状に合うよう変更し、適切な期間を設定した介護計画の立案が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録で記している。その他、申し送り帳に書き足したり場合によっては業務日誌に追加している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスや教材などのマニュアル通りには行かないことは多々ある。その都度、職員一人でのケアでうまくいかなければ職員二人で行うケアもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の入居前に住んでいた地域、当ホームの地域のお話をしながら馴染んで頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診して頂ける場所は協力依頼をしている。そうでない利用者様のご家族には受診結果を報告し病院のご家族に対してのご意見などを橋渡ししている。	入居者の入居前・入居中の疾病状況等を把握して、本人・家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変、急変の際は直ぐに看護師に相談し見てもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はこまめに面会へ行き本人様の状態を確認したり、病院の看護師さんに状況を確認している、その中で看護師長さんに退院の見込みを教えてもらうこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員、ご家族と十分に話し合い状況が変化の際はいつでも家族と連絡が取れるように協力して頂いている。	現在、重度化や終末期の看取り対応は実施しておらず、家族・本人の希望する他の機関での対応を依頼されている。家族からターミナルケアの要望が増えている現状からすると、今後、運営方針を変更するケースも想定されており、それに対応した知識技術を勉強会等の機会を利用して充実させていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故の場合、まずは家族に連絡する。その一方で適切な処置を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練に全員参加し避難経路や避難場所を確認できている。	災害時の避難受入先施設については、特別老後老人ホーム わだつみの里としている。調査時において避難訓練は未実施であったが、本年の避難訓練は外部評価実施後の3月後半を予定している旨、施設長より報告があった。	ホーム設置場所の地理的状況を勘案し、災害時の避難経路の把握及び地震・水害等に対応した防災訓練を実施することが望まれる。また、ホーム人員数等の各種事情を勘案して災害時備蓄品を整備しておくことが望まれる。また、入居者の各種情報等を記載した災害緊急時持ち出しファイルを整備しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉かけには注意し強い口調や命令口調にならないように気をつけている。	呼び方・対応の仕方により入居者の尊厳を傷付けないよう配慮はしているが、ふとした時に行き届いていないケースもあった。	接遇マナー研修や勉強会を定期的に開催し、尊厳に配慮したケアについて技術・知識を深める事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけたりせず本人様の意向に寄り添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日はどういう風に過ごしたいかを聞いて希望に合わせてたり、なるべく動いて頂けるように促す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択を出来る利用者様は選んで頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか要望を聞いてみたり、季節のメニューを提供している。	食事の際はいつもとは一味違った料理を提供されており、食事を少しでも楽しんで頂く工夫が窺える。食事に関わる入居者の方もおり、本人の自活力を活かされている。敷地内の農園で自分達で栽培した野菜を食べる事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量を200グラムに設定している。水分は10時と15時がお茶の時間、その他飲みたいといわれたときにお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員がついて義歯洗浄、歯磨きを見守りながら行っている。毎晩の消毒、義歯洗浄剤を入れて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便のチェック表を利用しそれぞれの利用者様の間隔を把握しトイレ誘導を行っている。	排泄記録をとり、本人の残存能力に応じた排泄支援をするよう心掛けていることが窺える。水分補給や食材の調整により、便秘対策も実施されている。見学させて頂いたトイレは適切に清掃がなされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食材を使い、便秘気味の利用者様には糖分を少し多めに取って頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に午後が入浴の時間なので応じて頂いている。	浴室・更衣室は広く、清掃は適切になされている。また、浴室の壁は木目調のものに変更されており、入浴環境の雰囲気良くする工夫がなされている。湯温管理については、自動調整式ではない為、やけどを防ぐ為に職員による温度確認は怠らないようにしていることが窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋の温度調節に気を配り休むのに丁度良い温度にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の都度、内服の変更と説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の事前調査である程度利用者様の情報を得ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は殆ど出来ていない。今後は入浴をやめてでも外出を試みたい。	敷地が比較的広いので、散歩コースともなっている。外には農園があり、ネギ・キャベツ・レタス等を栽培され、入居者も手伝う事がある。多目的センターや、正月には神社、3月頃には花見に行ったりと、わずかでも外部環境に入居者が触れる事で、充実感を味わってもらおうよう努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがあるときは本人と買い物にいたりできている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くときは職員が見守って書いている。電話はご家族からかかってきたらお話頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は場所で違えている。	元病院跡にホームが設置されている事もあり、2階リビングは机・ソファ・和室が広々と置かれ住みやすい空間となっている。ホーム入口には飾り物やソファがあるので、来客者も話しやすいものと思われる。調査当日は雛祭りの日で、玄関付近に雛飾りが設置されており、季節や行事によって飾り物を変え、入居者が少しでも季節感を味わえるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビをみたり新聞を読んだりされるスペースは十分ある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使用していたものを持参されているのでそれに併せたお部屋作りにも心掛けています。	見学させて頂いた居室では、入居者の好み・馴染みの物が持ち込まれており、生活しやすい居室づくりへの支援がなされている。また、清掃は毎日実施されており、整理整頓は適切であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	弱者の方がおられるが色々な場所を覚えて生活できている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 貳番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝のミーティングの際、申し送りが終わった後に運営理念等を唱和して、「職場の教養」という小冊子を用いて、スタッフで意見交換をしている。実際の業務に照らして話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として、近隣の小学校からの交流学习の一環で慰問が毎年ある。また、保育所からの慰問もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会婦人部慰問や家族会で施設概要と認知症について説明をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は開催月が遅れて迷惑をおかけしている。運営推進会議出席の方からの意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加いただいている為、その時相談させていただいている。また実地指導などを通じて翔里の状況を把握してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束について話し合い、理解した上で、常に入居者様の状態に照らし合わせて工夫し対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、研修会の報告などを通じて学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について、研修を通じて学ぶ機会があるが、報告や勉強会など継続していく必要がある。		

9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明を行っている。利用料金について、起こりうるリスク、状態が変化された場合について等は納得していただけるよう説明し、同意を得てからサービスを開始している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、電話等でコミュニケーションをとり、ご家族からの意見を運営に反映させるように努めている。ホーム行事などを活用してその際ご家族に集まって頂き懇談会をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中や休憩時間などにコミュニケーションを図るようにしている。また運営委職員会議を月に二回行い意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格、経験年数などを考慮して給与水準、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は各自の研修に際し勤務の調整をし、研修を受けられるようしたが、法人内外の研修を受ける機会の確保については少なく課題が残る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を兼ねて研修会を予定にはしている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との信頼関係を築くことが出来るように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会、電話等でコミュニケーションをとり、ご家族からの意見を運営に反映させるように努めている。ホーム行事などを活用してその際ご家族に集まって頂き懇談会をしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、その時必要としている対応ができるようにしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや、悲しみや不安喜びなどを知ることが出来るよう努め
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いを伝え、ご家族の方が不安に思っておられることはないのか、などつかめるよう努めている。ご家族には、情報がバラバラにならないように管理者、主任からの情報提供を行っている。受診の協力などもしていただいている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の知人の方が面会に来られる。美容院など行きつけの所にご家族に連れて行っていただいたりする。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話に聴く機会をつくったり、相談をゆっくり聴いたり、気の合う者同士で過ごせる場面が自然と出来たり、時には、利用者様同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援することもある。また、利用者様がストレスを抱えることが少なるように注意深く見守り支援している。

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者様、ご家族の方が困らないように相談していただけることを話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で声を掛け、把握に努めるようにしている。意思疎通の困難な利用者様については、ご家族、関係者などから情報を得ながら本人の意向に近づけるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前の情報を収集し、ご本人様の全体像が描けるように努めている。入居後も折に触れ、ご本人様、ご家族の方にとどのような生活をされていたか聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの一日の暮らし方や生活リズムを理解するとともに、心理面やご本人様のできる力、わかる力に注目し、利用者様の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画が十分にはされていない。利用者に状況について日々のミーティングや毎月おこなう部署ミーティングで利用者様について問題点や解決法を話し合っているが、介護計画に十分反映されていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事・排泄・バイタル・内服・身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなども記録しその場に出勤していない職員も状況を描けるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族の状況に応じて対応している。通院や外出時など必要な支援は柔軟に対応している。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域で暮らしていけるように、民生委員や消防、老人会の方々と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の方が希望されるかかりつけ医となっている。受診の経過、現在の受診の希望等を把握して受診の支援ができている。また、ご家族の協力も得られている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、介護職員の記録を基に連携をとっている。また緊急事態には、看護職員に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、出来る限りダメージを極力防ぐためその後も医療機関と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期(看取り)の事業所の方針について入居相談段階から説明し利用後も状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化やご本人様の思いに注意を払い、支援につなげている。安心して検討が出来るように情報提供を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署等の協力を得て、年に1回の応急手当の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	緊急連絡網を用いての避難訓練を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には出来ているが、勉強会やミーティング等の折に、職員の意識向上を図ると共に日々の関わり方を点検し、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。職員相互で点検しあいながら、ミーティングの場で確認と改善を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、身振り手振りで本人が決める場面を作っている(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと等)。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方にはならないように努めている。利用者様のペースに沿って見守りながら一緒に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えに関しては基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝っている。自己決定が困難な利用者様には、一緒に考えて、本人の意向に沿って支援するように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、職員間で検討したり、利用者様に問いかけたりして決めている。調理(皮むき、ごぼうそぎなど)、片付けなども利用者様と共に行い、職員(検食者)も一緒に同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう、雰囲気作りも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、嗜好などもとりいれながらバランスを考えている。水分については、おやつ、食事以外の摂取時は、介護記録に記載している。食べられないものがある場合は別のメニューで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、尿意の表現が困難な利用者様にも時間を見計らって、また本人の行動変化などで誘導することにより、トイレでの排泄を支援している。入居時、リハビリパンツを使用していた方も現在は、布パンツに尿とりパットに変わった方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容の工夫、乳製品を取り入れ自然に排便できるように検討している。また体操などを取り入れている。下剤については利用者様の状況によって調整しながらしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯については、本人様の生活習慣に合わせて行うことはできていない。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや入浴の順番など対応を工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるようにしている。また、一人ひとりの体調や表情などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。就寝前に、水分補給などもおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の量の変化したり、本人の状態に変化がみられる時は、いつもより詳細な記録をとるようにしている。看護師や医療機関、薬剤師との連携をとるようにしている。各個人々の服薬内容の理解、病状について等再認識する機会を設けている(薬剤師の出張勉強会等)。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の得意分野で力を発揮していただけるような仕事を頼み(掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、縫物など)、感謝の言葉を伝えるようにしている。本人の役割、楽しみなどご家族からの情報も得ながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて常に行うことはできていない。季節を感じてもらえるよう外出行事などを取り入れて、本人様の希望も取り入れるよう努めている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からおこずかいを預かり事業所が管理している方でも、外出時などには、買い物でお金を自ら支払っていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話かける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただけるようにひな人形を飾ったり、七夕、クリスマス、お正月などそれぞれ工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、フロア、談話室、食堂などなじみの利用者様同士くつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物などそばに置いている方がいるが、状況によってご家族と話し合いながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で居室に行けるよう目印など工夫している。ベッドについては、安全に配慮しながら利用者様に合っているのか見直ししながら対応している。		